

様式1(主な取組)

活動指標名	情報センターによる市町村別未収骨情報調査状況				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	1	1	1	2	1	—	100.0%	20,911	順調	糸満市、八重瀬町等において戦没者未収骨壕等調査を実施、資料調査、戦争体験者や関係者からの聞き取り調査を行い、未収骨の状況を把握した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										糸満市、八重瀬町等において戦没者未収骨壕等調査を実施、資料調査、戦争体験者や関係者からの聞き取り調査を行った結果、未収骨の情報は得られなかった。今後は確度の高い未収骨情報が得られた場合には、厚生労働省に対して当該箇所の情報提供を行う予定である。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 遺骨収集を行っている団体やボランティアから、更に詳細な情報（地域でまだ未収骨に関する情報を持っている人から証言を聞き出す等）を収集する。また、地域住民や市町村からも情報収集する。 厚生労働省が米国公文書館から入手した沖縄県内の未収骨に関する情報を調査分析し、新たな未収骨情報の収集に努める。 						<ul style="list-style-type: none"> 地域住民や市町村へ証言できそうな人を紹介してもらっているが、なかなか当時の情報を持っている方が少ないこと及び新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により対面する機会が少なかったことから、今後も、引き続き情報収集を行う。 昨年度に引き続き、今年度（令和3年度）も実施したが、未収骨情報は得られなかった。今後も資料に基づき引き続き調査を行っていく。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・戦後75年以上が経過し、戦争体験者や遺族の高齢化等により、戦没者遺骨の情報収集がよりいっそう難しくなっている。

○外部環境の変化

・戦後75年以上が経過していることから、収骨・未収骨の状況を把握している者の数が少なく、また、調査協力者が高齢であるため、聞き取った収骨・未収骨情報が曖昧であったり、不正確であったりする場合がある。そのため、当時の状況を知る方々が生存している間に遺骨収集を加速させる必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・遺骨収集を行っている団体やボランティア、引退された方々も含め、壕等収骨現場の詳しい状況など精度の高い未収骨情報の収集を行う必要がある。また、地域住民や市町村からも精度の高い未収骨情報の収集を行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・遺骨収集を行っている団体やボランティアや地域住民等からヒアリング等の機会を多く持つことで、更に詳細な情報(地域でまだ未収骨に関する情報を持っている人から証言を聞き出す等)を収集する。

・過去の収骨状況及び厚生労働省が米国公文書館から入手した沖縄県内の未収骨に関する情報を調査分析し、新たな未収骨情報の収集に努める。

様式1(主な取組)

活動指標名	ボランティア支援件数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	3	3	4	1	4	—	100.0%	1,174	順調	遺骨収集実績の約9割を占める民間団体やボランティアに対する活動支援(車両リース代、弁当代等を支援)を行うことにより、遺骨収集の加速化を図った。(支援団体数延べ4団体)
活動指標名					R3年度					
実績値										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 活動支援を受けて遺骨収集を行っていた団体等の多くが新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、遺骨収集活動の規模を縮小して実施した。一方、支援件数は、令和3年度は前年度から3件増加した。
活動指標名					R3年度					
実績値										
活動指標名					R3年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 遺骨収集を行っているボランティアや、地域住民等からヒアリング等の機会を多く持つことで、更に詳細な情報を収集する。さらに厚生労働省が米国公文書館から入手した沖縄県内の未収骨に関する情報を調査分析し、新たな未収骨情報の収集に努める。 これまで遺骨収集ボランティアとして活動されていた方々が高齢化のため引退されている。今後は学生ボランティアなど若い世代へその取り組みが引き継がれるよう支援を行う。 						<ul style="list-style-type: none"> 関係者からのヒアリングや厚生労働省が米国公文書館から入手した未収骨に関する情報を分析調査しているが、戦後75年以上を経過していることから新たな未収骨情報を得ることができなかった。今後も、引き続き情報収集を行う。 若い世代で遺骨収集を希望する方々に対し、情報センターを通して未収骨情報の提供やボランティア団体の紹介など活動支援を行った。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・ ボランティア等による収骨活動は行われたが、収骨に至らなかった現場もあった。
- ・ 今後とも精度の高い未収骨情報を地域住民や市町村から収集し、民間団体やボランティア団体等に対して当該情報を提供していく必要がある。
- ・ これまで遺骨収集ボランティアとして活動されていた方々が高齢化のため引退されている。今後とも遺骨収集活動を行う学生ボランティアなど若い世代へその取り組みが引き継がれるよう支援を行う。

○外部環境の変化

- ・ 戦後75年以上が経過し、戦争体験者の減少、高齢化、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により情報収集がよりいっそう難しくなっている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 過去の収骨状況などの調査分析、また遺骨収集を行っている団体やボランティア等あるいは地域住民や証言者から壕等収骨現場の詳しい状況など精度の高い未収骨情報の収集及び情報提供を行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ 遺骨収集を行っているボランティアや地域住民等からヒアリング等の機会を多く持つことで、更に詳細な情報を収集する。また、過去の収骨状況及び厚生労働省が米国公文書館から入手した沖縄県内の未収骨に関する情報を調査分析し、新たな未収骨情報の収集に努める。
- ・ これまで遺骨収集ボランティアとして活動されていた方々が高齢化のため引退されている。今後とも学生ボランティアなど若い世代へその取り組みが引き継がれるよう支援を行う。

様式1(主な取組)

活動指標名	厚生労働省要請現場数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	0	1	1	1	0	—	100.0%	0	順調	糸満市、八重瀬町等において戦没者未収骨壕等調査を実施、資料調査、戦争体験者や関係者からの聞き取り調査を行い、未収骨の状況を把握した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案								反映状況		
<ul style="list-style-type: none"> 既に収骨が終了したと思われる箇所から新たな遺骨が発見されたり、また、不正確な収骨・未収骨情報が存在することから、遺骨収集情報センターと連携を図りながら情報収集に取り組んでいく。 未収骨情報を集中的に管理しボランティア団体等との連携を密にすることにより、埋没壕等危険場所の情報があれば速やかに厚生労働省に遺骨収集を依頼し、遺骨収集の加速化を今後とも進めていく。 								<ul style="list-style-type: none"> 地域住民や市町村等から情報収集を行うなど遺骨収集情報センターと連携を図りながら情報収集に取り組み、さらに収集した情報をボランティア団体等に情報センターを通して提供した。しかし、戦後75年以上を経過していることから情報の正確性が不十分な部分もあった。 		



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・これまで遺骨収集ボランティアとして活動されていた方々が高齢化のため引退されている。今後は遺骨収集活動を行う学生ボランティアなど若い世代へその取り組みが引き継がれるよう支援を行う。

○外部環境の変化

・戦後75年以上が経過し、戦争体験者の減少、高齢化、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により情報収集がよりいっそう難しくなっている。関係機関と連携し、さらに遺骨収集事業の加速化を図る必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・過去の収骨状況などの調査分析、また遺骨収集を行っている団体やボランティア等から、壕等収骨現場の詳しい状況など精度の高い未収骨情報の収集を行う必要がある。また、地域住民や市町村からも精度の高い未収骨情報の収集を行い、関係機関と連携しながら遺骨収集事業の加速化を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・既に収骨が終了したと思われる箇所から新たな遺骨が発見されたり、また、不正確な収骨・未収骨情報が存在することから、遺骨収集情報センターと連携を図りながら情報収集に取り組んでいく。

・未収骨情報を集中的に管理しボランティア団体等との連携を密にすることにより、埋没壕等危険場所の情報があれば速やかに厚生労働省に遺骨収集を依頼し、遺骨収集の加速化を今後とも進めていく。